

# 風を見る者



発  
行  
者

東野高等学校同村会（同窓会）

〒358-8558 埼玉県入間市大字二本木 112-1

メールアドレス : [info@dousonkai.com](mailto:info@dousonkai.com)

ホームページ : <http://www.dousonkai.com>



同村会はアイス販売

目を引く人間大田楽

9月21日・22日に行われた、盛華祭。私には、かなり久しぶりの訪問となりましたが、多くの来訪者で大変賑わっていました。大講堂や多目的ホールに掲げられた個性的な絵画は昔からの企画であり、懐かしいものがありました。そんな中で目を引いたのは、人間大田楽。東野のキャンパスでは、このようなパレードがとてもマッチします。現役の生徒のみならず、若い力で模擬店やアトラクションなど、工夫をこらし、祭りを彩っていました。



同村会もアイス売り出し、暑い位の気候もあって大盛況。盛華祭が今後も、現役生・保護者とOBや地域の人たちが融合できる、東野高校最大のイベントとして盛り上がることを願っています。



盛華祭2日目の13時30分、武道場にて毎年恒例「東野プロレス」の第26回興行が行われた。興行タイトル「Revolution」。今年も武道場の砂かぶりでの観戦とあいなった。昨年と違うのは、カメラ代わりで使用している携帯電話の電池が少なくなること……観戦はともかく、撮影がどうなることやらとヒヤヒヤしながら時は進む。

昨年突然の引退宣言をしたドラえもん選手がスーツに身を包み、選手を率いて東野プロレスのマットに姿を表した。塩田選手や熊の爪エリック選手、ルパン三世、次元大介選手など出場選手の入場、マイクパフォーマンスが行われ、ドラえもん選手は解説者席へ。

ゴングが高らかに鳴り響き、塩田選手の容赦の無いチョップを食らったのけぞるレフェリーのミスター杉山氏や、熊の爪エリック選手への次元大介選手のトップロープからの華麗な攻撃など、華やかな試合が続く中、お馴染みのリングアナと軽妙なトークを繰り広げるドラえもん選手。ついに解説者への転身となるか……筆者はそう思い込んでいた、少なくとも、その時は。試合が進み、解説者席に座っていたドラえもん氏がスックと

立ち上がった。そして身にまとったダークスーツを脱ぎ捨て、突如としてリングに復帰したのであった！目の前で起こった出来事が信じられずボカンとしてくる筆者の目の前で、引退を宣言してもなお衰えぬドラえもん選手の華麗な技が炸裂し、かくも賑々しく華やかに試合は展開していった。終了のゴングは非情にも鳴り、この空間も終わりを告げる。しかしこれは次、そして未来にも続く始まりのゴングでもあるのだ。「さようなら」ではなく「また次回」のゴング。一抹の寂しさと次回への期待のようなものを含みながら、わら半紙のフライヤーを丁寧に折りたたんで、テントへと戻る筆者なのであった。来年も、出来ればそのまだ先の

未来でも、この東野プロレスを見ていたい、万が一試合のロビーが出るならばボックスで欲しいと思う程度には、東野プロレスが好きである。愛しき東野プロレスの全てに、輝きあらんことを切に願う。



東野プロレスHMF

総会を終えて

東野高等学校卒業生の皆さん。同村会会長の遠山です。2013年9月22日に行われた総会において、昨年度に続き、2013年度も会長に選任して頂きましたことを御報告致します。他の役員と共に、引き続き同村会を守り立てて行きたいと考えております。

総会は、出席者15名と、ここ数年出席者が確実に増え、特に喜ばしいことは、役員らが声がけをした方だけでなく、総会案内を見て自ずから出席して下さった方がいたことです。

同村会や学校に対する強い思いを発言される等、卒業生が発言できる数少ない場として総会を利用していただいたことは本当に嬉しい限りでした。

次に、可決された総会の議案について簡単に御報告致します。(議案書は同村会ホームページにも掲載しています) 順不動となりますが、2013年度の役員は1減2増の13名体制となりました。割合的には

10〜19期の役員が少なく、今後の活動としては、是非、補強していく必要性を実感しています。

各予算については、2012年度の予算を約69万円としていたところ、転居転送に対応できるように送付物はメール便を止めて郵便に変更。同村会室の清掃及び補修や備品の補充。役員の負担軽減のため役員会への交通費支給等により、執行された支出は約99万円となりました。

しかし、東野30周年の記念事業に向け、会員の掘り起こしが必須であることを鑑みれば、必要な支出であることをご理解頂けると幸いです。

次に、2013年度の予算案ですが、学校内外からの要求や会の存在意義・目的を含め、いま同村会が成熟した組織へ成長をすべき時期を迎えています。そのため、憲章や規約の見直しが必要不可欠となり、今後、その基本案を会員にお知らせする通信費も含め、平年より通信費を多く予算計上しました。

また、4月に新会員となる卒業生への記念品の購入や、前述の30周年記念事業の準備予算を計上しており、近年にない高額の約130万円の予算案となっておりますが、これも同村会の拡充に必要な予算であることをご理解ください。

このように、同村会は一歩ずつではあります。が、成熟した会へと前進し続けています。今後の同村会のため、東野のためにも、引き続き皆さんの御支援と御協力を御願致します。

総会資料は、こちらからダウンロードできます



http://www.dousonkai.com/kaiho/sokai\_2013.pdf

Table with financial data for Dousonkai, including income and expenses for the fiscal year 2013. It includes a summary table and a detailed breakdown of items like membership fees, interest, and administrative costs.

Table with financial data for Dousonkai, including income and expenses for the fiscal year 2013. It includes a summary table and a detailed breakdown of items like membership fees, interest, and administrative costs.

# 先生から、あなたへ

28年間を過去にしない

ー現在進行形で日々をおくるー  
数学科・情報科 前田良郎

はじめに

卒業した皆さんと共にこの地で28年間過ごしてきました。本校開校は1985年4月。新しい土地に学校を築き、新しい教育を創造して行く事に必死だった開校当初の数年間。開校から3年目を迎える1987年度は2期生の学級担任、そして卒業式を迎え、1989年度からの3年間は5期生の学級担任として入学から卒業までの3年間を初めて経験しました。1992年からの3年間は学年主任として又同時に学級担任として生徒と保護者の皆様と共に歩んだ3年間でした。1993年、8期生が2年次を迎えた7月の終業式の日、生徒に内緒で7か月間トレーニングし準備してきた2度目のヨーロッパアルプス、マッターホルンを目指していること打ち明けました。臆病な私はいつとも不安と自信のないなかで生徒に話し少し落ち着いた気持ちを取り戻します。この時も間近に迫った出発への不安な思いが少し落ち着いた気持ちとなりました。マッターホルンはこれまでとは違い、正直とても厳しい登攀でしたが、やはりこの時もクラスの子どもの顔を思い浮かべ、切り立った崖壁の真ん



中で聞きました。帰国後、卒業生が教えてくれたトリアスロンに憧れ、まともに泳ぎすらできない日々を積み重ねました。あれからの20年間、ウルトラマラソンで70km、100kmを走り、自転車で勸学札と進級や進路実現、卒業祈願に京都北野天満宮へも行きました。トリアスリートとして20年の節目を迎え、これから果たしたい次が見えてきました。

本校も2015年には開校30周年を迎えます。この節目にこれまでの時間を、そしてこれからの時に思いを抱き、新たに自らが果たさなければならぬ自覚に至ることが出来ました。ひと時を思い出に浸りながら今回原稿を書かせて頂き、卒業生の皆さんを再び近く存在として感じる事が出来たこと、これからの自分にとっても、

そして本校の更なる発展にも大きな力になるはず。原稿の依頼を頂きました同窓会の役員の皆様から心から感謝申し上げます。

恩師

私にも特別な『恩師』がいま。先生は私を担任として3年間指導して下さいました。高校の教壇に立ちながら、バレーボールの国際審判員をめざし、『いつか必ず国際審判員として笛を吹く、いつかオリンピックで吹いてやる』と仰っていました。その話を聴くたびに、高校生だった私たちは、又始まったと『線審』をしていた先生を怪訝に思いい、「本当になれんのかよ? 無理だろう!!」と話していました。当時の私たちは恩師の一面しか見ていなかったのかもしれない。しかしそんな恩師にも光が当たるときが来ました。先生は1992年バルセロナオリンピックで審判を務め、それ以来、世界中の多くの国際試合で主審を務めていらつしやいます。

恩師の教えがあります。『前田、いいか、高校の教師を続けるなら、学校以外で生きる場を持っている』これが先生の教えです。今でも会うたびに必ずトリアスロンを続けているかと尋ねます。そして、恩師は『自分の世界を生徒に話せ、生徒に話

せば後には戻れないだろ』。これが恩師の生き方でした。いつも傲を飛ばしてくれる、私にとってはいつまでも越えられない存在です。

ヨーロッパ遠征の時も、そしてマッターホルンの時も先生は喜んでくれました。最近少し涙もろくなった恩師ですが、世界で闘え、世界で試せといつも迫ります。そしてそれを生徒に話せ、生徒と一緒に努力しろと言いたいのだと思います。

トリアスロン

ずっと続けて来たトリアスロンは、自分を取り戻す場であり、過去を取り戻し未来を創造してゆく場でもあります。これが無かったら、自分はきっとどこかで挫け、折れていたと思います。トリアスロンとは、水泳3.8km、自転車180km、ラン42km、トータル220kmを一人で1日で駆け抜ける競技です。決して楽な競技ではありませんが、厳しい練習の時も、そして多くの選手とフィニッシュを目指す大会でも、厳しくなると多くの顔が思い浮かびます。屈託のない笑顔の生徒たち、卒業して何年にもなる教え子が現れては消え、現れては消えて行きます。その面影に背中を押され、苦しみな

がらゴールを

指して駆け抜けます。ヤンチャで手を焼いた生徒や、共に掛け替えのない時を過ごした教え子の顔が思い浮かぶのです。卒業後に様々に苦労しながら、頑張っている人と連絡してきた卒業生、子育てに疲れたと電話をしてきた卒業生、厳しい修行を越えて、社会に認められてきたと誇らしく話してくれた教え子たちです。そんな誇るべき多くの卒業生の存在が、私にフィニッシュラインまでの気力を与えてくれます。高校時代は様々につまずいた子どもたちが、社会に出て成長し、社会に貢献している姿を思うと、そんな卒業生に恥ずかしくない生き方としたいという思いが湧きあがります。力を尽くしている卒業生の様にかっこ良く生きたいと思えてくるのです。そしてそれを在校生に伝えていきます。つまり自分自身を失いかけてきた時には、こんな卒業生の存在が目標になり、励みになります。在校生たちには信じて突き進んでゆける確信をみつけてもらいたいと願い、自分を越えて努力している卒業生の存在を話す動機になります。



過去ではない

ー現在進行形で共に頑張るー

ヨーロッパアルプス、モンブランやマッターホルンを過去の話題にはしたくない。過去の事実を留めるのではなく、現在進行形として更に延長線を引いて行く事。これがこれからの自分であると考えています。教師としても年齢を重ねて来たからこそ、これまでをまとめ上げる時であると考えています。20年間遠ざかっていた山にも戻ろうと思っています。今までしてきた自分の世界、富士山よりも高みを目指し、世界の街を走り、世界の海を泳ぐ、今再びそこを目指して、教師としての残された時間を突き抜けたと考えるようになりまし。そして出来るならば当時は果たせなかつた更なる高み、ヒマラヤの高みを臨みたい。トリアスロンではこれからも世界の街や海を、世界の文化を感



Ironman-challenger@ezweb.ne.jp  
LINE & Facebook 前田良郎

同村会の皆さんへ

国語科 河野秀夫

同村会の皆さん、こんにちは。河野秀夫（かわのひでお）と言います。私がこの東野高校に赴任してもう12年が経ちました。赤ん坊が小学校卒業する程の年月が経つたと考えると少し感慨深いものがあります。私が勤め始めたばかりの東野高校は、制服もなく、エアコンもなく、ロッカーもありませんでした。また、グラウンドも人工芝ではなく、大講堂前も舗装されておらず、砂利が敷かれていました。そして、その砂利の1つひとつが大きな色も違うように、生徒のみなさんの物凄い個性に圧倒されたことを覚えています。

様々なことが印象に残っています。担任を持った生徒のことはもちろん、部活で出会った生徒のひと（スキー部、ソフトテニス同好会、卓球部、野球部、剣道部、そして文芸部）、泣いたこと、笑ったこと……。本当に沢山の思い出があります。その一つひとつが大切な宝物です。

同村会の皆さんからすると、近年の東野高校の著しい成長の変化に戸惑う人もがいるかもしれません。12年前から東野高校にいる先生も全体の3分の1となっています。しかし、東野高校の本質は変わっ



ていません。生徒の為に何が出来るか、真剣に考えている先生ばかりです。先生と生徒の心の距離が近いことも昔と変わりありません。「不易と流行」という言葉がありますが、何事においても「変わらないこと」と「変わり続けること」は共に大切なことです。東野高校も同様です。変化したことも多々ありますが、変わらない部分、変えてはいけない部分もあります。ですから、同村会の皆さんも外見は年を重ねて変化していったとしても、内面には高校生の頃と変わらない熱い志を持って、今できることを精一杯やって下さい。最後に私の好きな言葉を紹介します。同村会の皆さんへの贈る言葉と代えさせて頂きます。今後も皆さんのことを東野高校から大きな声で応援しています。

「今すぐ幸福になりたければそれは簡単です。何でもよいから感謝する事を見つけるのです。見える、話せる、歩ける、食べられる、着ている、住んでいる。どうですか？ 貴方は幸福な方でしょうか？ 美輪 明宏」

東野高等学校同窓会  
「同村会」の皆さん

国語課 鬼島知美

みなさん、元気に暮らしていますか？

新卒で初めて「先生」と呼ばれるようになったのは、15期生が2年生の時。8クラス中7クラスの古典を担当し、顔と名前が全員一致する状態でした。私にとって初めての生徒であり、个性的でインパクトもあつたから、今でも顔を思い浮かべることができません。

初めて担任をもったのは20期生。1年から3年まで持ち上がり、深い関係が築けた学年だったなど、とても懐かしい。「まだまだガキなんだよ。卒業までにもっと成長するから。」と言われた言葉は、心の奥に残っています。そして、今の私の教育活動に役立っています。高校生は一見大人だし、言わなくてもわかるだろうと思ってしまう。また、こちらの指導が伝わらないとイライラします。そんな時、思い出すのです。「この子も、今からもっともっと成長していくんだな。卒業が楽しみだな。」と。初めて制服ができ、コース制が設けられた23期生。大学進学コースの担任として、進路を意識してクラス運営をしてきました。覚えていますか？  
……英語の単語練習ノート。小学



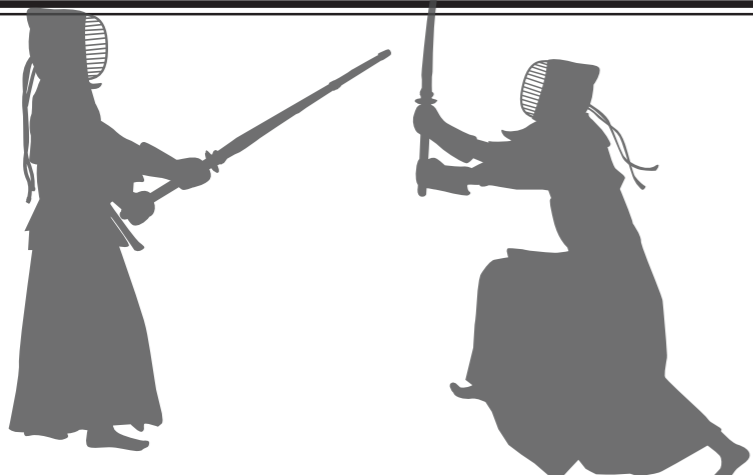
生みただけけれども、個々に到達シールを貼っていく掲示物。定期試験で結果を出そうと一生懸命勉強し合っていたのは印象的です。

25期生では、大学進学αコースの担任。3年間ほとんどメンバーが変わらず、20人以下のクラス。和気あいあいとアットホームな人間関係の中で、ゆったりと過ごし、進路実現に向けた勉強をしていました。入学当初、誰も一言も発しない空気は異様でした。それ以来、新しいクラスでの始業時はいつも緊張している私です。

担任としてだけではなく、部活動や委員会活動でも多くの皆さんと関わってきました。演劇部では卒業生に支えられて、今でも活動しています。弓道部のみんななどは、この間久しぶりに会いました。変わらぬ仲の良さが伝わってきました。村祭り実行委員会での数々の出来事は、写真やポスターを見る度に思い出します。

こうやって振り返ってみると、多くの人と出会い、多くの思い出を心に刻んできたなと思います。これが、教員という仕事の魅力だと改めて感じます。

最後にたくさん卒業生が、結婚の挨拶に来てくれたり子供と一緒に会いに来てくれたりします。社会人として活躍している姿にも出会います。……そういう卒業生の報告や様子にエネルギーをもらって、今の生徒たちと楽しく過ごしています。私はいつでもこの東野高校にいます。いつでも会いに来てください。そして、先生と生徒を越えた「大人同士」の交流が出来ればうれしいです。



卒業生に一言。

保険体育科 楠木哲治

東野高等学校卒業生の皆さん、お元気ですか？ 盈進学園東野高等学校にお世話になり29年が過ぎようとしています。開校当初から剣道を通じての人間形成に力を注いできましたが、この3月を以て退職することとなりました。

思い出せば色々なことがありました。生徒や保護者と遭り合ったことや、体育祭でクラスの生徒と大汗を掻きながら盛り上がったことなど沢山思い出が溢れます。その中でもやはり剣道部の思い出が一番です。教員になった原動力はそこにあるのですから仕方ないですね。

剣道部員には一番厳しく接してきました。剣道の技術を高め勝つことよりも、人としてどうあるべきかを教えてきたつもりです。その甲斐あって今でも卒業生たちと付き合いをさせて貰っています。

私に関わった人も、そうでない人も本当に有難う御座いました。最後になりますが、卒業生の皆さんの益々のご活躍を祈念致しております。

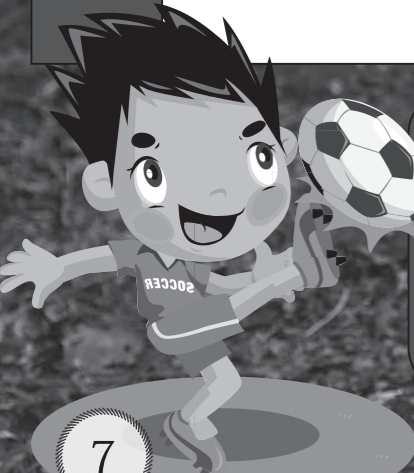


運動部に聞きました  
文化部に聞きました

部活名	サッカー部	野球部	弓道部
部員数	男子:26名	男子:16名	男子:19名
学年	3年:8名、2年:14名、1年:4名	3年:0名、2年:7名、1年:9名	3年:7名、2年:4名、1年:8名
活動場所	グラウンド	グラウンド、100m 走路	大講堂3階、入間市民武道館
顧問名	鈴木先生、青木先生	仲本先生、小黒先生	川鍋良信先生、田畑慶子先生
部の目標や夢	県大会出場。	今年の夏の大会ベスト32に入ること。	各大会において、1次・2次予選を通過し、県大会に出場すること。
卒業した先輩に伝えたいこと		夏の大会に応援しにきてください。	なかなか思うように結果が出ないけれども日々努力をして精進しています。時間があったら練習を見に来て下さい。
部活内で困っていること	部室が足りない。 フィジカル強化の為にトレーニングルームが欲しい。	練習場所がない。 バッティングマシンも足りない。 バットが足りない。	道具を買うのに高額でなかなか思うように購入できない。 部費を集めていないので困っている。 大講堂内の道場の照明・天井の雨漏り等、改善してもらいたい所あり。

現在も活躍している数々の部活から、いくつかご紹介します。今回は6件ですが、あなたの在籍していた部活の状況は？ここに紹介した部活はほんの一部です。皆さんいろいろと頑張っていますよね。自分の在籍していた部活が気になったら、これを期に、在校生の応援・支援に参加してみましょう！

部活名	美術部	吹奏楽部	写真部
部員数	男子:10名、女子:7名	男子:11名、女子:11名	男子:18名、女子:1名
学年	3年:3名、2年:6名、1年:8名	3年:7名、2年:3名、1年:12名	3年:8名、2年:7名、1年:4名
活動場所	美術室I	音楽室(大)、+α(音楽室小、各教室)	活動:理科室2階の暗室 撮影:個人で外に出ています
顧問名	菅原英雄先生 副顧問:今関雄史先生	石川麻由子先生、渡辺智之先生 コーチ:小松好美先生	藤井亮先生
部の目標や夢	お互いに協力し合い、高め合うこと。 集中してやる時はやること。	金賞の受賞。 県大会出場。 西関東大会出場。	埼玉県高校写真連盟の6月展または11月展で、優秀賞を獲得することです。脱生、埼玉栄を目標に頑張っていきます。
卒業した先輩に伝えたいこと	部活や制作途中でわからないことがあったりした時に、アドバイスをしてくれて有り難うございました。先輩方から学んだ事をこれからも活かしていければ良いと思います。卒業後も自分の夢に向けて頑張って突き進んで下さい。	卒業してからも演奏会に聞きに来て下さったり、大会の手伝いに来て下さったりして本当に有り難うございます。これからも応援よろしく御願います。	本年度、私学文化祭の写真部門において、埼玉県知事賞をいただきました。今後も、部員一同、ますます頑張っていきます。
部活内で困っていること	生徒から…特になし 顧問から…美術やデザイン関係などの進学、進路を希望している生徒に対して、もっともっと力をつけさせてあげたいが出来ていないことです。	創部当初にそろえた楽器は老朽化がひどく、特にチューバやティンパニーなど大型の楽器は出費として大きいため充分にカバーできていない。今回チューバ一台を購入予定も、もう一人の部員、または新入生の楽器は古いものそのまま。また、トロンボーンは学校所有のものがなく、一時的に小松先生の私物を使わせてもらっている。高価なものなのでなるべく早く用意したいが、予算的に苦しい。個人負担を迫ることはなるべく避けたい。	写真部の活動が忙しい時期が7～9月、12月、1～2月となっています。暗室にはクーラーがないため、夏には薬品を冷やして、冬には薬品を温めて現像作業を行っています。それでも現像には厳しい温度環境しか用意できていません。短い放課後の活動を充実させるためにも、より良い現像作業をするためにも、暗室にクーラーを設置してほしいです。



# 同村会からのお願い



東野高校もまもなく開校から30年。4月には30期生を迎え、来年9月には30周年記念式典も予定されていますが、同村会は、進学・就職・結婚など人生の転機により東野との繋がりが途切れてしまった卒業生を探しています。

同村会は毎年、住所がわかつている卒業生全員に会報を発送していますが、会報が届いていない卒業生は『行方不明者』になってしまっています。もし、友人との会話で『会報が届いていない』という卒業生がいたら、同村会までご連絡下さい。

2003年に成立した『個人情報保護法』により、行方不明者の名前を掲載することはできません。

とも出来ず、

連絡の途切れてしまった卒業生を探すことがとても難しくなっているのです。

卒業生の個人情報、同村会規約の定める業務（刊行物の発送・同村会または東野高校の行事のお知らせなど）以外で使用することはありませんし、学校を含む第三者に、情報データを提供することもありません。

冒頭にも書いたように、来年9月には盈進学園創立90周年、東野高校開校30周年記念式典が予定されています。母校の節目のこの機会にもう一度『東野高校と繋がりを持ちませんか。』

役職	氏名	卒業期
会長	遠山 尚	1期
副会長	伊達 亮介	3期
経理		
副会長	黒澤 豊	9期
経理	北澤 理恵	3期
監査	小川 清之	2期
	毒島 純	3期
	羽田 寿孝	3期
	高橋 古志夫	4期
	深澤 寛	5期
	川島 正扶三	11期
	熊谷 智子	13期
	山本 千恵子	21期
	下津 郁也	23期

本年度も、よろしくお願い致します

## 11期生の同窓会が、開催されました

卒業後2回目となった、東野11期同窓会は、8月に池袋のホールで実施され、恩師2人、約40人の同窓生が集まり大いに盛り上がりました。開始前はみなさん少人数で、散り散りに固まっていたのですが、開始の合図である当時の流行歌（小室哲哉）が流れると、気持ちは即、あの頃へ！バイキング料理をつつきながら、思い出話に花を咲かせました。

ちょうどいい人数なので、全員から一言近況報告をいただく事ができ、出産予定の方へ花束贈呈のサプライズもありました。終了後も路上で別れを惜しむかのように立ち話。2次会は居酒屋。3次会はカラオケ。そのあともあつたりして……当日の様子は、CDに収められ、後日参加者全員に配布されました。今回も同期生の名簿作成から、全てやって下さった幹事さんありがとうございました！

皆さんも、久々に東野同期の同窓会をしてみませんか？

最初は緊張するかもしれませんが、始まってしまえば、まさに夢のような楽しいひとときになるでしょう！

東野同村会が、案内状発送などの協力をしてくれますので、まずは問い合わせしてみてください！



### 温故知新

## 周年記念誌「卒業生紹介コーナー」にご協力ください

東野高校の記念誌で、卒業生の皆さんを紹介したいのです。ご協力、いただけませんか。ご協力いただける方、同村会までご連絡をお願い致します。

### 連絡先



メール  
info@dousonkai.com

※2014年4月20日までに、ご連絡ください

2015年、東野高校から周年記念誌を発行致します。盈進学園の歴史、卒業生からのメッセージ、ポータルサイトの写真などを1冊の本にまとめたものです。記念誌委員は、学園評議員、先生、事務員、卒業生で構成されています。

この記念誌に「あなたの今」を載せ、生徒には、これからの夢や目標の参考に、その他の方には、東野の日々を駆け抜けた生徒のその後の姿を届けたいと考えております。

### ●お願い

- ・色々な立場の方を紹介したいため、偏らないよう、ご連絡いただく際に、職業の明記をお願い致します。
- ・携帯のアドレスによっては、返信できない場合があります。できるだけパソコンのメールアドレスから、お願い致します。

### ●募集：20人

これらが、記念誌に載ります。

- ・氏名
  - ・卒業期
  - ・卒業アルバムの写真
  - ・職業
  - ・現在の写真（1枚は顔が大きく写ったもの。できれば、その他、テーマに関係した写真もご用意いただければと思います）
  - ・あなたの寄稿文700～800字。（テーマ：「現在の自分に繋がる、東野高校での経験」）
- 東野時代を振り返り、どんな事があなたの今に深く繋がっているか。それを語ってください。

